三重県の新生児・乳児をRSウイルス感染症から守るために

RSウイルス感染症は、１歳までに70%近く、２歳までにほぼすべての小児が感染し、初回感染においては40％で気管支炎や細気管支炎、肺炎を起こすとされており、1～3%が入院を要します。特に生後1ヶ月未満では無呼吸発作、突然死の原因となることが知られていますが、特に基礎疾患のない健康な正期産児がRSウイルス感染症の入院例の90%程度を占めており、RSウイルス感染症を広く予防することがこれまで大きな課題となっていました。

こうした中で、一回の投与でRSウイルス感染流行期を通じた効果を発揮する長期間作用型のモノクローナル抗体製剤であるニルセビマブ（ベイフォータス?）が開発され、2024年3月に国内で承認され、基礎疾患のある新生児・乳児には保険適応で接種出来るようになりましたが、一般の新生児・乳児は自費でしか接種出来ませんでした。しかしながら、この高い有効性と安全性のため、欧米諸国においては、2023/2024シーズンから全ての新生児・乳児に対して定期接種となって無償で接種されています。国内では高知県須崎市も無料で接種されています。

日本小児科学会からも厚生労働省に対して「すべての新生児・乳児に対しても抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体製剤を広く提供するための体制整 備に関する要望書」が提出されており、ニルセビマブを全ての新生児・乳児に使用することで、子供たちをRSウイルス感染症から守ることが期待されています。

今般、三重県において、初めてRSウイルスの流行に直面するすべての新生児・乳児に無償で、このニルセビマブを接種してその効果と忍容性を検証するプロジェクトを行っています。対象は「三重県に住所地のある、2024年11月1日~2025年10月31日に出生した児」です。ご興味のある方は、予約専用電話に「シンフォニー外来」について聞きたいとお問い合わせください。

〈059-232-1818/059-232-1820〉
（受付時間　平日14:00～16:00）

（名誉院長　谷口　清州）

小ちゃんの病院探検 2病棟

2病棟は小児科病棟で、感染症や胃腸炎、川崎病などの緊急性のある入院から、鼠径ヘルニアや中耳炎など手術を必要とされる方、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、糖尿病、摂食症、肥満症など長期にかけて入院される方など幅広く入院されています。長期入院の場合、治療を受けながら隣接する特別支援学校に通学することが可能です。病室に各個人の学習机があり、学習できる環境も整えています。また、気分転換ができる環境として「視覚」「聴覚」「触覚」「嗅覚」を刺激する「スヌーズレン」を行っているお部屋があり、写真のような異空間が、患者さんのストレスを緩和し、癒し効果をもたらしてくれます。休日には遊びを通して、長期でも楽しく療養生活を送ることができるよう支援をしています。

（2病棟看護師長　片浦　明子）

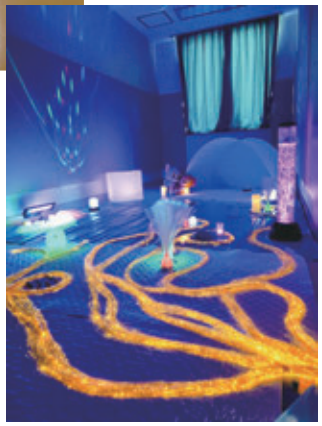
ストラックアウトで遊ぶ風景

通学風景

病　室

学習机や
ロッカーもあります。
学習や整理整頓を
する環境で
自律性を養います。

次回は
南３病棟です


スヌーズレン